

法人本部

事業概要報告

法人理念「自分を愛するように、あなたの隣人を愛せよ」の下、当法人は107年の歴史と共に地域に愛され、民間社会福祉としての活動と役割を果たすべく、社会福祉支援を要する人々への相談・援助・支援、地域福祉活動、社会貢献等々に重点をおきながら事業を推進いたしました。

3月11日の東日本大震災において被災された方々に心よりお見舞い申し上げますと共に一日も早い復興をお祈りいたします。

法人として、健全な法人運営と施設経営管理の推進、職員の処遇向上、人材育成、利用者サービスの質の向上等、公共性の高い社会福祉法人の役割をより積極的に実施し民間社会福祉施設活動の役割を果たすべく社会的支援を必要とする人々への支援、地域福祉活動、社会貢献等に重点をおき国・県・市町村関係機関との連携を密に社会福祉法人の事業を展開することを基本方針として3園の事業を推進しました。



基本目標

地域における福祉の発展・充実を担う中核的な組織として、公共的・公益的な事業を県及び関係機関・団体等と連携・協働して推進します。

健全な法人運営や施設経営管理の適正化ならびに職員の処遇向上と人材育成、利用者サービスの質の維持向上に努め地域住民の皆様に対する理解と信頼性を高めて参りました。



理事会



評議員会

児童養護施設 ひまわり園

事業概要報告

平成 22 年度は入所児童 77 名でスタートし、年間で 10 名の入所（乳児院から措置変更 3 名、家庭からの入所 7 名）がありました。

退所児童は 12 名（家庭引き取り 5 名、就職自立 3 名、措置変更 4 名）でした。

高校卒業後に就職した児童では住居の確保が問題となりました。アパート契約の保証には親権者の同意が必要ということになり、親権者の協力が得られないケースでは、保証人なしで入居できる物件を見つけるのに苦労しました。

特別支援学校高等部を卒業した児童は、生活拠点がなかなか見つからず、また通勤寮等の利用料の問題（低い収入の中で生活が成り立たない）があり、3 月半ばまで進路が決まりませんでした。それぞれの担当職員が関係諸機関と何度も検討の場を持ちながら、かろうじて年度内に解決できたという状態でした。制度改革の中で、保護者からの支援が受けられない児童の進路支援は年々難しくなっているといった印象が強く残りました。

入所児童への支援では、高機能自閉症、反応性愛着障害といった児童の対応で職員の手を要することが多く、突発的な行動に目が離せないこともあり、他の幼児や児童に充分目が行き届きづらいといった状況もありました。

しかし、22 年度に卒業した高校生は皆それぞれに施設生活の中で、児童会や球技大会、職員へのサポートなどで頼りになる存在として活躍し、その成長は大変喜ばしいものでありました。

また、22 年度より富士児童相談所が新設され、措置機関との連携という点で以前より強化されてきたことは今後の児童支援に大きな力になると期待しています。



重要事項報告

平成 22 年度は、ひろみ施設長の退職にあたり、ひまわり園から児童指導員 1 名が配置異動となりましたが、その補充ができず、性教育や児童会活動などに支障を来した面がありました。よりよい支援を進めていくためには人材確保は不可欠であることと実感しました。

また、政府の「子ども手当」政策に伴い、施設入所児童にも同額の「特別支援事業費」が支給されることとなりました。しかし、保護者が「子ども手当」を請求していない児童に限られたことで、支給される児童と支給されない児童に格差が生じる結果となったことは制度の不備を感じました。

東日本大震災は想像を絶する多大なる被害を残しましたが、3 月 15 日に起きた富士宮市を震源とする震度 5 弱の地震で、ひまわり園の学習室のトイレのタイル壁、集会室階段の破損など、建物に被害が生じました。幸い入所児童の生命に関わるような被害はありませんでしたが、緊急時対応に関して、職員招集、防災用品の不足、停電時対策などいくつかの課題があることを再確認しました。

感染症対策としては、感染症対策委員会を中心に施設内感染を防止する取り組みをしていますが、幼稚園や学校に通う中でインフルエンザの感染者が出てしまい、消毒の徹底や感染者の隔離対策を施したにもかかわらず、みどり園からの措置変更の準備などに支障が生じたことは残念なことでした。

22 年度は各方面からご寄付や補助金をいただいて、地デジ対応型テレビ、床の張り替え工事、公用車の購入、屋外散水機の購入など施設設備の充実を図りました。

施設整備

取得

- | | |
|---|-------------|
| ① 地上デジタル対応テレビ 14 台（エキスパートグループホールディングス 寄付） | 1,827,000 円 |
| ② 堂床張替工事（社会的養護入所者環境改善事業） | 1,890,000 円 |
| ③ 習室床張替工事（社会的養護入所者環境改善事業） | 357,000 円 |
| ④ トヨタ サクシード（県共同募金より補助） | 1,524,000 円 |
| ⑤ 屋外散水機（富士市福祉まつり実行委員会より補助） | 365,595 円 |
| ⑥ ネットワーク通信配線工事（施設機能強化推進費） | 367,500 円 |
| ⑦ 理事長室収納書庫一式（みどり園と按分） | 220,920 円 |
| ⑧ ソフトウェア人事奉行システム一式 | 79,800 円 |

廃棄

- ① トヨタ カルディナ（老朽化に伴う廃棄、サクシードに買い換え）
- ② パソコン 1 台（トラブルが多いため新規リースに変更）



【地デジ対応テレビ】



【トヨタ サクシード】



【屋外散水機】



【園長室書庫】

地域小規模児童養護施設ひろみ

事業概要報告

平成 22 年度、「ひろみ」は地域小規模児童養護施設の指定を受け（承認年月日：平成 22 年 4 月 1 日）、ひまわり園と連携し、24 時間体制で入所児童の安全・安心の確保に努めました。

22 年度は、6 名のスタートとなりました。10 月に 1 名が家庭引き取りとなり、3 月に 1 名が他施設から入所しました。

ひろみでは、子どもが日常生活において主体的に考え取り組むことが出来るように、子どもと職員の話し合いである「ひろみ会議」、子ども話し合いである「キンモクセイの会」を月 1 回程度実施し、子どもと職員のコミュニケーションの充実を図りました。

また、個別の聞き取り面接である「聞き取り」も定期的を実施し、個々の意見の尊重、現在の子どもの状況把握に努めました。



重要事項報告

小規模児童養護施設の特徴を生かし、地域との関係を大切にすることを心がけました。地区のお祭りや防災訓練、地区体育祭などの地域活動に主体的に参加すると共に、近隣とのおつきあいの中では、野菜や卵をいただいたり、



植木の剪定のお手伝いをしていただいくなどのご協力をいただき、また「ひろみ」の子どもたちが職員と共に近所のゴミ拾いや草取りをおこなったり、近隣の方がご出産された際には出産のお祝いを贈るなど、地域住民の方々との交流を日常の中で大切にしてきました。

施設設備

浴室、脱衣所の老朽化に伴い、平成23年3月に浴室、脱衣所の改修工事を予定していましたが、3月11日に発生しました東日本大震災の影響を受けて、改修工事を平成23年度5月に延期することになりました。

取得

・冷蔵庫 85,800円

改修工事

・浴室、脱衣所の改修工事
(システムユニットバス、給湯設備、洗面化粧台) 1,890,000円



【冷蔵庫】



【システムユニットバス】



【給湯設備】



【洗面化粧台】

恩賜記念みどり園

事業概要報告

平成 22 年度は暫定定員になるかもしれない状況でしたが、定員 30 名で事業を実施する事ができました。

また、年度当初から積極的に緊急一時保護や入所依頼を受けて参りましたが、家庭引取や里親への措置変更児童も多かったので、入所率は年平均で 95%でした。

基本目標や実施目標に掲げた、愛着形成の促進による「よりよい関係作り」に関する取り組みは、ユニット制による養育や、小規模グループケアの実施、試験的ですがボランティアの協力を得て、プレイセラピーを導入したことなどを通じて子ども達の心の安定に努めました。

平成 22 年度の 16 名の退所児童中 5 名の児童を家庭への復帰に繋げられ、家庭復帰率は 31.3%でしたが、里親への委託も 31.3%と一応の結果が得られました。

しかし、ノロウイルスによる感染性胃腸炎の園内への侵入があり、自主公表をしたために皆さまにはご心配をお掛けいたしました。子ども達はいずれも軽症で比較的早く終息させることができました。しかし、感染症対策の実施で、入所児童の散歩を法人構内に制限したり、感染児の隔離を実施するために、小規模グループケアを休止しなければならず、入所児童をはじめ職員にもかなり我慢を強いた年でした。

また、感染症対策を実施したため、緊急に受けなければならない児童の親に、感染症に罹る可能性を説明したり、感染児の隔離で観察室を使用して、入所後の観察期間を設ける場所が無い事や入所児童の面会を制限した事などで、家庭的に恵まれない児童の緊急一時保護や、入所児童の家庭復帰促進などをその使命とする乳児院の運営の難しさを痛感させられた年度でした。

また、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災や、3 月 15 日静岡県東部を震源とする大規模な余震に見舞われましたが、入所児童に怪我等はなく、園舎も破損した箇所はありませんでしたが、大規模な停電に対する備えが十分ではなかったことから園舎内の停電に対する備えを強化しました。

スプリンクラー設置を含む設備面の大規模修繕に関する計画については、付帯工事に感染症対策を盛り込み、感染拡大を防止するための、吸排気を中心とした空調設備の見直しや、隔離を含めた 0 歳児養育の充実等を盛り込んだ計画を完成させ、国や県に対する概要説明等を終えることができました。



重要事項報告

1 感染症について

平成22年度は11月にノロウイルスによる感染性胃腸炎の園内発症があり、類似症状を含め22名の児童と職員が感染したと思われました。(ノロウイルス陽性確定は児童7名のみ)感染初期に嘔吐・下痢・発熱等の類似症状の子ども達を一斉に隔離してしまったため、隔離をした人数が公表の基準に達してしまい自主公表を行った結果、皆さまには大変なご心配をお掛けいたしました。感染したと思われた職員等2名はその後の検査でノロウイルスに感染していないことが分かりました。

子ども達の症状はいずれも軽く1~2回嘔吐して便が緩くなりますが、嘔吐は治まってしまいう子がほとんどでした。脱水症等の合併症も起こさず、入院する子どももおりませんでした。

平成23年1月末に水疱瘡が園内発症し1歳3ヶ月~3歳5ヶ月の子ども達18名が水疱瘡に感染いたしました。水疱瘡についても感染症対策として園内での隔離を実施し、2月1日には保健所に届け出を行いました。症状はいずれも軽く発熱した子どもは3名程度でした。

また、水疱瘡での隔離対策中に、通院児童からRSウイルスの感染が分かり、7ヶ月から1歳11ヶ月の児童5名が感染しました。RSウイルス感染症についても隔離対策を実施し、5名以上の感染拡大を防ぐことができました。RSウイルス感染症は例年ですと入院する児童がおりますが今回は入院に至らずに済みました

2 スプリンクラー設置及び大規模修繕について

平成21年度に設計監理を委託した、ゆたか建築設計事務所とともにスプリンクラー設置箇所や大規模修繕に関する詳細について検討を繰り返し、最終的な工事概要を完成させることができました。

また、国や静岡県に対して概要調書等の必要とされる資料を提出いたしました。さらに理事会では、建設委員会に大規模修繕事業に関する権限の委任を承諾していただき、建設委員の選任もしていただく事ができました。

理事会では指名競争入札を実施する承認も受ける事ができましたが、静岡県の指導で、入札に関しては30~50社程度の制限付き一般競争入札を実施する事になりました。

平成23年4月19日には、国の補助金の内示をいただき、4月20日には実施設計審査が終了し、4月22日には口答ですが静岡県の補助金の内示を受けることができました。

工事概要

① スプリンクラー設置工事

(1階:全室、廊下・2階:廊下を除く各室に設置 ※トイレ、浴室等除く)

② 園舎屋上の防水工事

- ③ 2階職員寮改装工事
 - 1. 洋室への改装（12畳 1部屋）
 - 2. 和室への改装（12畳 1部屋）
 - 3. 倉庫への改装（6畳 1部屋）※保存文書収納用倉庫
- ④ 1階診察室及び観察室の感染症対策強化工事（床暖房工事を含む）
- ⑤ 1歳児室の0歳児対応工事（床暖房化を含む）
- ⑥ 1階空調機能の強化工事（0歳児室・1歳児室・診察室・観察室・食堂等）

施設整備等

昭和50年度の事業で建設された築35年を経過した園舎はさすがに老朽化が進み、空調設備や、誘導灯、厨房設備等の修理や取り替えを実施しました。

特に園庭照明のための電線が老朽化して、漏電したことからブレーカーが落ち、防犯カメラ用のハードディスクなどが使用不能になってしまったことから、園庭の老朽化した電線の撤去等の修繕工事や、非常灯を含めた照明設備の取替工事が必要となりました。

また、厨房で使用していた冷凍冷蔵庫も扉が閉まらなくなり、業務用の大型冷凍冷蔵庫に買い換えをしました。

1 固定資産計上取得物品等

- ①業務用冷凍冷蔵庫 561,750 円
- ②人事奉行(パソコンソフト) 79,800 円 ※法人内施設で費用を案分

2 固定資産廃棄物品等

- ①ウルトラブロック 1 円（残存価格）

3 その他の取得物品

- ①洗濯機 1 台 80,340 円
- ②スチーム加湿器 2 台 27,510 円
- ③空気清浄機 SHARP フォラス[®]マクマスター 3 台 59,400 円
- ④ハンディー作業灯 5 台 55,125 円
- ⑤公用車用タイヤ 4 本 64,890 円

4 修繕工事等

・ ミシン修繕	46,200 円
・ 厨房電源工事	78,750 円+35,700 円
・ 厨房ガス台修繕工事（ガス漏れ修理）	30,450 円
・ 厨房換気扇取替工事	85,000 円
・ 厨房水回り修繕工事（漏水修理）	26,250 円
・ 厨房、児童居室照明器取替工事	50,925 円
・ 生ゴミ処理機修理	5,250 円
・ 事務所コンセント移設工事	53,550 円
・ 1階食堂床張り替え修繕工事	101,850 円
・ 園庭門扉取替修繕工事	273,000 円
・ 空調配管保温材取替工事（結露・漏水修理）	63,000 円
・ 機械室空調機チリングユニット修理工事	100,000 円
・ 洗濯室コンセント増設工事	98,700 円
・ 母子生活室扉・ガラス取替工事	204,750 円
・ セコム防犯カメラ修理	26,355 円
・ 非常灯取替工事（老朽不点灯器具取替）	472,500 円
・ 園庭照明取替修繕工事	372,750 円
・ 園庭外灯蛍光灯修繕工事	115,500 円
・ 2階遊戯室テレビアンテナ配線工事	99,750 円
・ 観察室自動水栓修理・配線工事	123,375 円



園庭照明取替修繕工事



園庭門扉取替修繕工事



園庭照明取替修繕工事

特別養護老人ホーム みぎわ園

事業概要報告

昨年度猛威を振るった各感染症の発症も無く落ち着いた1年でありました。特養部門に於いては、前年に引き続き多くの入退所者の動きがあり、タミナルケア（看取り介護）実施3年の下で、介護看護スタッフの充実したケアに対し、家族から感謝の言葉を頂き、評価しています。

在宅介護サービスについては、利用者の伸びに鈍化が見られたが、特筆

として、認知症対応型デイ（デイサービスみぎわ園）については、定員12名満床に迫る日々の利用者数があり、努力が結実した成績を残すことが出来ました。しかし現状は、在宅系サービス過当競争時代を如何に生き抜くか、課題を残しています。

職員の資質、技術向上を目的として1年間を通して実施された「観察と記録」の職員研修は、講師である龍尾和幸先生（京都セルフサポートセンタ東樹施設長、佛教大学講師）の熱心な講義の下、「観察なくして援助なし」が受講生に強く印象付けられ業務内での成果が見られています。

介護職員処遇改善交付金制度の要件となっている「キャリアパス」も半年をかけ、介護施設準用の人事管理制度の初期運用がされました。管理会議をはじめ各種会議を整備、推進した結果、方向性が示され職員の意思の高揚と定着化が現れてきています。年度末には、厚労省の勧める「看護介護ケア連携」の伝達講習など順次進められ、今介護施設に求められている準医療対応も施設の医療化が懸念されるところでもあります。3月11日に発生した東日本大震災、この未曾有の津波による大災害に対し、改めてお見舞いを申し上げます。日本中を震撼させたこの大災害に対し施設の防災管理、その備えの脆弱さが露呈し、法人内他施設からの応援と急遽、発電機、照明灯、職員の手配、配備等で程度の解決を見ましたが、今だ多くの検討事項が残されており順次整備を進めている年度末の動きでした。



開設後初の百歳のお祝い風景

重要事項報告

1. 本年度実施ターミナルケア（看取り介護）も 15 件（うち加算請求対象 11 名）と終焉を迎えるにあたり入所者ご家族に対し献身的に取り組みに『感謝の言葉』を多く頂きました。又介護スキル向上のための職員研修「観察と記録」をテーマとして 2 月まで前後班 5 回（全 10 回）の講義を、講師龍尾和幸先生の熱のこもった講義の下、観察の重要性、記録から物語る介護支援など、介護スキルの向上が図られました。
2. 「介護サービス調整会議」の定例開催の下、経営的感覚を養うことと、渉外、対外支援など担当職員の自己研鑽が出来つつあります。
3. 設備関係から、5 月より掘削していた井戸鑿泉も 9 月には 120m 掘下げを完了し、10 月上旬には毎分 140 L（Φ40 mm）の湧水量が確保され、特筆すべきはバナジウム含有（ $8.0\mu\text{g}/100\text{ml}$ ）が確認され、某飲料メーカーより高い成分の水で供給し、経費削減にも寄与している。
4. 厨房施設内にスチームコンベクション機器を導入。更新予定の空調設備、特殊浴槽、給湯設備については様々な検討の余地を残し今年度は保留としました。



井戸ポンプ建屋



井戸ポン



スチームコンベクションオーブン



非常用発電機×2



防災倉庫

実施目標報告

部門：特養介護管理

1. 介護人材の確保に努め、適正な配置、安心安全をモットーに介護事故ゼロを目指します。

年々職員の定着性も高まり、介護現場での充実と介護感が培われ、実習生の受け入れなど徐々に対外的な評価が得られてきています。ケアレスミス（怪我で通院者があり）が多かった点では、大いに反省すべき所でもありました。

2. 心のこもった「看取り介護」を実践する。

看取り介護も3年目を迎え、本人、家族の強い希望中で15名のターミナルケアを実践し、「安らかなる終焉を迎える」ことへの支援ができたと思えます。

3. 入所判定時までの利用者の情報把握に努めます。

多くの入所を望む方々に対し、誠意と公平さを保ちつつその希望にかなわぬジレンマを感じながら、多くの面接とその説明責任を果たしながら対処しました。

4. 介護スタッフの個人面談の実施

一人ひとりの業務姿勢を確認し、記録への研修を「観察と記録」を一年間を通して受講し、介護記録への職員の実力が発揮しつつあります。

部門：看護・医務

1. 介護職との連携、適時的確な状態把握に努める。

ご利用者の重度化傾向により、ご利用者の些細な症状や行動変化を介護職と連携し早期発見に努め、適切な処置を行ってきました。ご家族への報告と説明を密にして、安心して戴ける信頼関係を築きつつ、医師への的確な判断できるようご利用者の医療情報提供に努めました。

2. ターミナルケア（看取り介護）、その人らしさの尊重と安らかな終焉を支援する。

前年度（19名）に引き続き今年度も15名の方を看取るに至り、出ご利用者ご家族の思いや希望に沿った看取りを行うために介護職との情報の共有を図り、協働連携した個別ケアを実践しています。

部門：1 北ユニット（するが・さがみ）

1. 24 時間シートの作成については、ご利用者の入退所が多く居住の安定化が図れず今年度は実現できませんでした。ご家族との信頼関係の下でご利用者の近況報告などを密に行い、良い連携を築きながらよい雰囲気作りして、よい終末期ケアができたのではないかと思います。
2. 今年度は給食課の協力を得ながらユニット内バイキングを含め目標に近づけたのではないかと思います。



外食レク（ファミレス：サガミから）



ボランティア演奏会

部署：1 南ユニット（いせ・みかわ）

1. 出勤したら、担当ご利用者の所へ行き笑顔と大きな声で挨拶に始まり、話をしながら昨日と違うところはないか状態の把握に努め、連絡ノートや介護日誌に記入するとした申し送りの流れ（明け→早番→日勤→遅番→夜勤）が出来ました。
2. 看取り介護時も職員同士・看護との連携を大切にするケアの充実を図り、ご家族とのコミュニケーションを日頃から大切にされた相談しやすいユニットを作る事が出来ました。



昼食バイキング風景



敬老会（職員八木節の一コマ）

部門：2Fユニット（くすのき・もくせい）

1. 職員間も笑顔を忘れず明るく、ご家族が見えた時は必ず笑顔で挨拶し近況を報告しています。
2. 伝達ノートの確認「ほう・れん・そう」の徹底を図り、ご利用者への声かけを忘れず行うことができました。園内外研修にも積極的に参加し、スキルアップが図られています。
3. 月1回ずつのレクリエーションや外出、外食、買い物など入所者、ご家族にも大変喜ばれ、喫茶や寿司バイキング、アイスバイキングなど色々な事を引き続き積極的に行っています。
4. お誕生会や季節に合ったレクリエーションが好評で、季節の花を飾り家族的な雰囲気を出すなどでの住環境の工夫を実践しました。



おやつ作り風景



寿司バイキング

部署：3Fユニット（あまぎ・あしたか）

1. 季節行事、個別外出は昨年以上に取り組み特に個別外出について計画を立てて積極的に行い、ご家族からも好評でありました。
2. 「明るく、笑顔で対応し、家庭のような雰囲気」をモットーに職員一丸となって共に明るく笑顔の耐えないユニットが出来ました。
3. 「身体拘束ゼロ」を目標に取り組みましたが、1件家族の強い希望により4点柵の拘束を行ったが、記録等もしっかり行った。ただ誤薬が何件か見られ、再度与薬方法を見直す1年でもありました。



鈴木芳子様百歳のお祝い



三日市場浅間神社 初もうで

部門：ショートステイみぎわ園

1. 体調管理は、看護師や家族との連携が十分にとれ、ご利用時の手指消毒の徹底により、インフルエンザ・嘔吐下痢症等の感染症の侵入防止が出来ました。
2. ご利用者の顔と名前の確認により誤薬事故を防ぎ、配薬作業を間違いもなく投薬における事故防止が出来ました。
3. クリスマス等の季節行事など年間を通して、職員による演奏会・寿司バイキングなども行い盛況でした。「平均利用率 80%を目指します。」としましたが、平均稼働率は 72.6%と定期利用者の入院や施設入所・体調不良等によるキャンセル等で目標を到達できませんでした。



おやつ作り（たこ焼き）風景



音楽会（職員の演奏）

部署：デイサービスセンターみぎわ園

1. ご家族とのコミュニケーションを一層重視し、希望される方には迅速に対応するなど、家族のニーズに対して、「利用者家族のかゆい所に手が届く」努力を目指した結果、昨年以上の営業活動を活発にする事が出来、稼働率 82.0% 平均利用者数 9.8 名と、デイサービスの大幅な利用人数を増やす事が出来ました。
2. 「食の充実化」を進め、月に一度のバイキングメニュー、二度のセレクトメニュー等を取り入れ、「食べる楽しみ」を感じていただく事が出来ました。取り組んできた「野外機能訓練」ものびのびと気持ち良く運動する事が出来、利用者の機能低下を防ぐ事が出来ました。



納涼祭の風景



食事バイキングの風景

部署：ふようデイサービスセンター

季節行事の見直しや、クラブ活動を開始などの充実を図り、現在は、手芸・折り紙・習字の3つのクラブで実施し、利用者様の要望に応えられるよう行っています。

1. 稼働率 83.5% 平均利用者数 29.2 名と目標値（30 名／日）には届きませんでした。
2. レクリエーション介護マニュアル毎分類する事により、見やすくなり安全性を高め、再検討、更新はその都度行っています。
3. ご利用時の満足度を上げる為にアンケートを個別での行事、季節感のあるレクリエーションを充実させ、それに合わせた食事の提供を実施しました。



屋外歩行訓練の風景



運動会の風景



余暇の時間のコマ

ふよう居宅支援事業所

1. H22 年度は 4.6 人体制で活動し、地域に広く知っていただき地域に貢献したい、介護保険制度を有効に活用して欲しいという思い、また特定事業所加算Ⅱの条件を満たし責任のある活動、姿勢をとり活動しました。
2. 研修においても必要に応じて参加し、部内での勉強会を開催、共に専門技術の向上を図り取扱件数にまだ余裕もあり、部門との連携に一層努め、ふよう居宅介護支援事業所の更なる進歩を目指しました。

部署：在宅介護支援センターみぎわ園（高齢者支援窓口）

22年度は21年度同様、地域包括支援センターとの契約下、実態把握や、見守り支援など報告・提出方法がさらに厳しくなる中で、伸びが厳しい状況にあります。

また、今年度も元気アップ教室が脳イキイキ教室と名称が変更になり、依頼を受け活動致し、今泉地区・吉原西部地区ではサロンでの出張相談や介護予防教室などを重点的に行い地域の高齢者及び高齢者世帯にPR出来たと思います。



元気UP教室の様子



サロンで交流の様子

資料 1

平成 22 年度職員配置状況

平成 23 年 3 月末日現在

職 種 施設名	施設長	副施設長	介護職		看護師		相談員	介護支援専門員		管理栄養士	事務職員	運転業務職員
	常勤	常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	常勤	非常勤	常勤	常勤	非常勤
特 養	1	1	32	9	6		1	1		1	4	
ショート			7	1			1					
みぎわデイ			1	2			1					
ふようデイ			6	3	1	1	1		1			
ふよう居宅								4	1			
在宅介護							1					
合 計	1	1	46	15	7	1	5	5	1	1	4	3

注：兼務の場合は主たる施設・業務にてカウント（ふようデイ栄養士除く）
3 月末時点で育休 4 名

資料 2

施設利用者の状況（平成 23 年 3 月 1 日～31 日）

	平均年齢		平均介護度		要支援 1		要支援 2		要介護 1		要介護 2		要介護 3		要介護 4		要介護 5		3 月利用人数
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
	平均年齢		平均介護度		計		計		計		計		計		計		計		
特 養	79.5	86	3.48	3.95	/	/	/	/			31	217	245	372	211	572	93	713	2,454
	84.3		3.83		0		0		0		248		617		783		806		
ショート	81.1	88.1	2.41	2.83		2		20	9	42	41	47	24	128	9	115		40	477
	86.5		2.73		2		20		51		88		152		124		40		
みぎわデイ	77.9	80.1	2.71	3.45	/	/	/	/	13		37	34	34	62	22	46		13	261
	79.2		3.17		0		0		13		71		96		68		13		
ふようデイ	82.6	84.9	2.13	1.94			19	53	22	77	58	198	18	118	8	23	3		597
	84.1		2				72		99		256		136		31		3		
ふよう居宅	80.5	83.2	2.18	1.98	2	1	4	8	11	20	17	26	15	11	8	8		2	133
	82		2.06		3		12		31		43		26		16		2		

資料 3

平成 22 年度 特養入所状況

	入所者	退所者	(内) 看取り
自 宅	6		
老 健	13		
病 院	3	6	
死 亡		15	11
合 計	22	21	11

資料 4

平成 22 年度 みぎわ園面会者数実績報告

単位：人

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
面会者数	445	511	412	445	570	513	519	453	444	645	357	449	5,763

年 間 総 数： 5,763 名

1 日 平 均： 15.8 名

資料 5

平成 22 年度 研修参加実績表（みぎわ園全体）

年 月 日	タ イ ト ル	研修先	所 属	人 数
H22. 4.26 ～27	施設ケアマネージャー研修会	東 京	ケアマネ	1
H22. 5.19	法人職員研修「観察と記録」(前期)	法人内	職 員	31
H22. 7. 3	高齢者施設における看護師の 専門性と具体的な動き方	東 京	看 護	2
H22. 7. 5	事業継続計画（BCP）策定セミナー 6 回 7/5、7/22、8/5、8/26、9/9、9/24	富 士	介 護	1
H22. 8. 3	中堅職員のための組織性向上講座	静 岡	介 護	1
H22. 8. 4 ～5	指導的職員研修 I	静 岡	介 護	1
H22. 8. 9	中堅職員のための組織性向上講座	静 岡	介 護	1
H22. 8.17	感染症予防対策講座	富 士	看 護	6
H22. 8.21 ～11.20	介護従事者初任者研修会	富 士	看 護	3
H22. 8.27	利用者第一主義の定着と実践	静 岡	事 務	1
H22. 8.27	JAL アカデミー接客マナー研修	静 岡	看護・介護	5
H22. 9. 9 ～9.10	特養・看護と介護職による ケア連携動同研修事業	静 岡	看 護	1
H22. 9. 9 ～9.10	新任職員研修 II	静 岡	介 護	1
H22. 9.12	第一回感染対策支援セミナー	三 島	看 護	2
H22. 9.13	第一回感染対策支援セミナー	静 岡	看 護	1
H22. 9.18	応急手当普及員養成に係わる講習会	富 士	看 護	1
H22. 9.30	施設ケアマネの現状と課題	伊豆の国	ケアマネ	1
H22.10. 1	介護職のための薬の知識講座	静 岡	介 護	1
H22.10. 7	口腔ケア講座	静 岡	介 護	2

H22.10.18	第二回感染対策支援セミナー	三島	看護	2
H22.10.27	法人職員研修「観察と記録」(後期)	法人内	職員	31
H22.11.12	リハビリテーション講座	静岡	介護	3
H22.11.24 ～11.26	ユニットリーダー研修(講義)	愛知	介護	1
H22.11.29 ～12.3	ユニットリーダー研修(実習)	静岡		
H22.12.6	福祉サービス苦情解決研修会	静岡	相談員	1
H23.1.12	ユニットリーダー研修(講義)	愛知	介護	1
H23.2.7 ～2.11	ユニットリーダー研修(実習)	静岡		
H23.1.12	急変を見逃さない救急講座	静岡	介護	3
H23.1.18	実習指導者ステップアップ研修	静岡	介護	2
H23.1.25 ～1.26	新任職員研修Ⅱ	静岡	介護	1
H23.1.27	「認知症予防を考える」セミナー	沼津	看護	3
H23.2.3	身体拘束廃止フォーラム	静岡	介護	2
H23.3.7	福祉職合同入職会	沼津	介護	3



法人職員研修「観察と記録」講師：龍尾和幸先生 受講風景
 平成22年(前期：5/19・6/30・7/28・8/25・9/22)
 (後期：10/27・11/24・12/22・1/26・2/23)